

2005(平成 17)年度事業報告

(2006年4月28日評議員会同意、同5月29日理事会承認)

I. 財団法人の記録

1. 寄附行為の一部変更 (平成 17 年 10 月 7 日環境大臣認可)

(1) 事務所に関する変更

第 2 条の事務所所在地を「東京都中央区新川 1 丁目 16 番 10 号」に変更。

(2) 事業報告および決算に関する変更

公益法人会計上不要な規定であった第 13 条第 2 項を削除。

(3) 主務官庁に関する変更

平成 13 年の省庁再編を踏まえ、寄附行為中の「内閣総理大臣」を「環境大臣」に改め。

2. 事務所の移転

平成 17 年 11 月 5 日、東京都千代田区三番町 5 番 24 山路三番町ビル 3F より東京都中央区新川 1 丁目 16 番 10 号ミトヨビル 2F に移転。

3. 会員数 (平成 18 年 3 月 31 日現在、カッコ内は昨年度比)

(1) 普通会員

個人会員	13,264 人	(-243 人)
ファミリー会員	3,132 人	(-81 人) ※1 家族 3 人計算
ユース会員	259 人	(+20 人)

(2) 団体会員

	777 口 / 367 団体	(-65 口 / -19 団体)
--	----------------	------------------

(3) 賛助会員

	80 口 / 34 法人	(-5 口 / -3 法人)
--	--------------	----------------

(4) 寄付サポーター

	934 人	(-37 人)
--	-------	---------

(5) アクションサポーター

	5,023 人	(+1,179 人)
--	---------	------------

合計	23,469 人・口	(+768 人・口)
----	------------	------------

4. 会議

(1) 評議員会・理事会

- ・ 5 月 26 日 定例評議員会・定例理事会 / (議決) 平成 16 年度事業報告・収支決算
- ・ 8 月 31 日 臨時評議員会・臨時理事会 / (議決) 寄附行為の一部変更

(2) 理事会

- ・ 3 月 3 日 臨時理事会 / (議決) 平成 17 年度補正予算
- ・ 3 月 29 日 定例理事会 / (議決) 平成 18 年度事業計画・収支予算、新評議員候補者の選任

(3) 評議員会

- ・ 2 月 16 日 書面表決 / (同意) 平成 17 年度補正予算(案)
- ・ 3 月 20 日 定例評議員会 / (同意) 平成 18 年度事業計画・収支予算(案)

(4) 委員会活動

- ・AKAYA プロジェクト調整会議（7/1、1/17）
- ・AKAYA プロジェクト企画運営会議（8/9、3/17）
- ・AKAYA プロジェクト自然環境モニタリング会議（8/4、2/14）
- ・泡瀬干潟自然環境調査委員会（5/23）
- ・生態系総合モニタリング調査検討会（7/10、1/7）
- ・NACS-J ふれあい調査研究会（9/27）
- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成運営・選考委員会（4/28、8/9、9/11）
- ・モニタリングサイト 1000 里地調査検討委員会（6/9、3/2）
- ・小笠原自然環境モニタリング調査検討委員会（7/5、10/13、12/25、2/2）
- ・自然観察指導員養成講師会議（2/12）
- ・日本自然保護協会沼田眞賞運営・選考委員会（6/27、3/7）

5. 意見書等の公表

(1) 意見書・要望書等

各事業で取り組んでいる問題に対し、9 件の意見・要望等を提出した（12 頁・別表 1）。

(2) 声明・パブリックコメント等

各事業で取り組んでいるテーマに対し、11 件の声明・パブリックコメント等を提出した（12 頁・別表 2）。

6. 委員の派遣

各事業で取り組んでいる問題・テーマに関わる 21 件の委員会等に役職員を派遣し、環境施策の転換や事業の見直しの検討に参画した（13 頁・別表 3）。

7. 印刷物の発行

(1) 会報『自然保護』

年 6 回／奇数月発行（第 485 号～第 490 号）、40 頁／各号約 18,000 部

(2) 報告書・資料集等

- ・『うまんちゅぬ宝・泡瀬干潟の自然ガイドブック 泡瀬干潟自然環境調査報告書【普及版】』（9 月、3,000 部）
- ・『地域の豊かさ発見＊ふれあい調査のススメ【お試し版】』（9 月、3,000 部）
- ・資料集 45 号『自然環境モニタリング調査の手引き I－入門編 身近な自然を見つめる目』（3 月、1,500 部）

(3) 出版

- ・『生態学からみた里やまの自然と保護』（4 月、石井実監修、講談社サイエンティフィック、2,500 部）
- ・『植物群落モニタリングのすすめ 自然保護に活かす「植物群落レッドデータ・ブック」』（7 月、大澤雅彦監修、文一総合出版、2,500 部）

(4) パンフレット

- ・個人会員入会案内パンフレット（94,000 部）
- ・NACS-J 自然保護寄付パンフレット（2 種・計 64,000 部）

- ・AKAYA プロジェクト紹介パンフレット (11,000 部)
- ・「NACS-J 自然しらべ 2005～10 年目の川」調査シート (24,000 部)
- ・「NACS-J 自然しらべ 2005～10 年目の川」結果レポート (18,000 部)

II. 事業報告書

「平成 17 年度事業・予算の基本的な考え方」に沿って、以下の業務を実施した。

1. 総合プロジェクト

(1) AKAYA プロジェクト

林野庁関東森林管理局と締結した『『三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画』推進のための協定書』（平成 16 年 3 月 30 日～平成 23 年 3 月 31 日）に沿い、生物多様性保全と持続的な地域社会づくりの実践事例構築のための各プログラムを立案し、実施した。

① 自主活動

- ・活動拠点「いきもの村」保全活用プログラムの確立

昨年度修復した活動拠点「いきもの村」（旧営林署施設）を、サポーター共同研修地として整備し、月例の環境管理・調査研究実習「赤谷の日」を開催した。また、「いきもの村」を地域住民や近隣施設利用者への環境教育拠点とするため、調査研究成果を発信するスペースを設けた。

- ・旧三国街道エリアにおける環境改善プログラムの検討

AKAYA プロジェクト地域協議会の活動に協力し、AKAYA エリアの旧街道網の現地視察調査を行い、環境管理方策の検討を進めた。

- ・AKAYA プロジェクト総合事務局の運営

「調整会議」「企画運営会議」の 2 種の定例会議を主催し、プロジェクト協定に関わる 3 者をはじめとする、関係団体との合意形成・意思決定の枠組みを確立した。

② 受託研究

- ・AKAYA 再生事業に関するルーティン業務の確立（自然再生推進モデル事業／林野庁関東森林管理局委託、継続）

昨年度策定した「自然環境モニタリング基本方針（第 1 次）」に基づき、「多様性復元検討委員会」を設置し、植生・大型猛禽類・ほ乳動物・気象環境・モニタリングサイト設定の各調査と地理情報システムの構築を通じて、赤谷の森の再生・修復のための基礎情報を収集・蓄積した。また、関東森林管理局・利根沼田森林管理署による生物多様性復元を指向した植生管理の実施計画策定に参画し、制度の活用方策を確立した。

- ・コリドー保全事業に関するルーティン業務の確立（緑の回廊保全管理事業／林野庁関東森林管理局委託、継続）

「緑の回廊モニタリング委員会」を設置し、「赤谷の森」の回廊エリアの植生、大型ほ乳動物の各調査を実施した。

(2) 尾瀬プロジェクト

① 自主活動

尾瀬を守る会等、尾瀬に関心を持つ地域自然保護団体と、至仏山および尾瀬全体でとられるべき保護対策について意見交換を行うとともに、シンポジウムの開催に協力した。

② 委員会参画活動

受託研究として行った至仏山環境共生推進調査の結果に基づき、「至仏山保全基本計

画案」を検討・作成し、至仏山の保護対策に関する課題設定について群馬県と検討を進めた。また、日光国立公園・尾瀬地域の公園計画改定に対し、尾瀬保護財団とともに改善提案の検討を開始した。

(3) 小笠原プロジェクト（新規）

① 自主活動

小笠原諸島全域の自然保護問題の解決とそのプロセスに対する地域 NGO との関係構築に向け、関係行政機関に対し、総合的な調整機関の設置を企画提案した。

小笠原地域の自然観察指導員連絡会および研究団体と、プロジェクトの枠組みに関する意見交換会を4回実施した。

② 受託研究

小笠原諸島全域の国有林に対して、保護林再編に向けての準備作業を実施した（森林生態系保護地域設定事業／林野庁関東森林管理局委託）。

2. 保護研究事業

(1) 保護系プログラム

① 干潟・藻場生態系保全

- ・ 沖縄島における海草藻場保全

沖縄島内の海草藻場に関わる資料・情報等の収集と、屋嘉田潟原等で現状把握のための現地予備調査を行った。

- ・ 沖縄島北部東海岸（辺野古・嘉陽地域）海草藻場保全（自然保護助成基金助成、継続）

市民参加型調査「ジャングサウオッチ」の調査マニュアルと海草識別シートを作成し、調査員養成のための初心者講習会（約15名参加）、辺野古海域での年1回の定期調査「ジャングサウオッチ」（約20名参加）を実施した。また、辺野古・大浦湾に関する検討会議による緊急調査・検討を行い、米軍普天間飛行場移設計画の見直しと海草藻場・サンゴ礁生態系の保全を求めた。

- ・ 沖縄島泡瀬干潟保全（自然保護助成基金・WWF 日興グリーンインバスターズ基金助成、継続）

専門家・地域グループとともに現況把握調査を実施、過去2年間の調査結果をとりまとめ、事業の見直しと干潟の保全を求める要請活動を行った。また、『うまんちゅぬ宝＊泡瀬干潟の自然ガイドブック』の作成・配布やシンポジウム「アワせてみよう 干潟の自然とまちづくり」（9/17、WWF ジャパン・日本野鳥の会共催、うるま市民芸術劇場、約80名参加）の開催等を通じて、調査結果と干潟保全の重要性を普及した。

② 野生生物保護

- ・ 野生生物保護基本法の制定と関係法制度の改正の提案

「野生生物保護基本法制定をめざす全国ネットワーク」の加盟団体として、法制局・関係議員等へ基本法の制定および関連法案の改正への働きかけを続けるとともに、緊急シンポジウム「2006年鳥獣保護法改正ここを変えたい緊急集会」（1/9、文京シビックセンター、約130名参加）の開催等により鳥獣保護管理のあり方について課題整理と提案を行った。

- ・ 特定外来生物法運用に対する対応

特定外来生物法の運用や第2次特定外来生物指定の検討に関わる動きのモニタリング

を続け、パブリックコメントへの意見提出等を行った。

③ 河川・森林生態系保全

・河川生態系の保全

熊本県川辺川について、地域グループによる九折瀬洞窟コウモリ調査・クマタカ繁殖状況調査への協力とダム事業の状況モニタリングを継続した。北海道天塩川流域サンルダム問題について現地視察を行い、状況モニタリングを開始した。

長良川について、河口堰運用後 10 年の環境変化と、それらが地域の自然・社会に及ぼした影響を明らかにするための企画を立案し、取り組みを開始した。

・森林生態系の保全

小笠原諸島全域を対象とした森林生態系保護地域の設定、保全管理委員会（仮称）の設置を目指し、総合プロジェクト事業の一つとして取り組みに着手した（5 頁）。

福島県会津地域の自然林保護および山地性大型猛禽類の生息地保全のため、検討委員会の設置と保護林の新設・拡大を働きかけ、全域を保護地域化することへの合意を成立させた。

以前に保護林等の設置を働きかけた岐阜県御嶽山に計画された濁河風力発電計画について、事業者との交渉および関係行政への意見書提出等を行い、事業の中止を導いた。

④ その他国内保護

現地視察・意見提出・委員会参画・取材対応・催事協力等により、各地の活動への支援・協力や施策の転換に対する働きかけを行った（12～14 頁・別表 1、2、3、4）。

行政研修・大学講義等への役職員の派遣（環境省、林野庁、国土交通省、水資源機構、国立科学博物館自然教育園、東京情報大学ほか）、修学旅行による中高生の訪問学習の受け入れ等、各方面へ自然保護の解説を行った。

2 種類の「自然保護寄付パンフレット」を作成・配布し、資金支援を呼びかけた。

⑤ 情報整理（J.INOUYE 基金を活用）

図書等各種資料の登録・分類・整理を行い、「自然保護ライブラリー」のデータベースおよび検索システムを整備した。

⑥ IUCN 日本委員会運営

IUCN(国際自然保護連合)の会員 23 団体からなる IUCN 日本委員会の事務局として、会議・ホームページ等の運営、寄付の呼びかけ等の広報活動を行った。

⑦ 受託研究

・国際生物多様性情報収集（環境省請負、継続）

「IUCN-WCPA 東アジア保護地域会議」（6/21-25、香港）および「IUCN 国内・地域委員会会合」（2/13-15、オランダ）への出席・発表、IUCN イギリス事務所・UNEP 世界自然保護モニタリングセンターの訪問等を通じ、海外の生物多様性保全に関する動向情報を収集した。

(2) 研究系プログラム

① 植物群落 RDB モニタリング

・市民参加の海岸植物群落調査（日本財団助成、継続）

昨年度(1 年目)に調査を実施した約 300 ヶ所の調査結果のとりまとめと専用ホームペ

ージでの成果公表を行った。今年度(2年目)は調査研修会を12回開催し(14頁・別表5、386名参加、調査地点約440ヶ所)、調査が進んだ地域ごとに結果をとりまとめた。

- ・環宮崎平野照葉樹林調査(自然保護助成基金助成、継続)

宮崎平野周辺に残存する照葉樹林の現況把握調査を実施、猪八重・綾・高岡地域では詳細な現地調査を行い、人工林化や送電線の設置等人為による破壊の現状を明らかにした。

- ・「植物群落モニタリングのすすめ 自然保護に活かす『植物群落レッドデータ・ブック』」を出版した(大澤雅彦監修、文一総合出版、2,500部)。

② 里やま保全研究(地球環境基金助成、継続)

昨年度(1年目)に引き続き、土浦市宍塚大池での里やまモニタリング試行調査を続け、調査マニュアルを改訂し、『自然環境モニタリング調査の手引きⅠ-入門編 身近な自然を見つめる目』を発行した。また、シンポジウム「市民参加のモニタリングから考える里山の保全方策」(2/12、宍塚の自然と歴史の会共催、土浦市市民会館、約170名参加)を開催し、モニタリングの重要性を普及した。

③ ふれあい研究(ニッセイ財団助成、継続)

専門家・市民グループからなる「ふれあい調査研究会」を設け、地域自然を守るための市民によるふれあい調査の事例分析・現地視察を進め、調査の意義と手法を検討した。その成果を冊子『地域の豊かさ発見*ふれあい調査のススメ【お試し版】』にまとめ、ふれあい調査の普及に努めた。

④ 原生自然保全研究

屋久島において平成18年度から実施される「世界遺産地域における自然生態系の動態把握と保全管理手法に関する研究」(環境省)の予備調査を実施した。

⑤ 自然保護データベース(自然保護助成基金助成)

GISを活用して作成した植物群落RDB、各種の自然環境情報や保護地域、高速道路・鉄道網などの開発利用情報を保全地域情報集約システム(SISPA)に搭載した。また、宮崎・沖縄・群馬・小笠原地域等について詳細な事例研究を進めた。

⑥ 研究・活動支援

- ・プロ・ナトゥーラ・ファンド助成(自然保護助成基金との共同)

平成17年度(第16期)助成の募集・審査を行い、24件の国内外の研究・活動グループに計2,500万円の資金支援を行った(15頁・別表6)。

平成15年度(第14期)助成の成果報告書を作成するとともに、平成16年度(第15期)助成の成果報告会を開催した(12/10、東京渋谷・こどもの城、約140名参加)。

⑦ 受託研究

- ・モニタリングサイト1000里地調査(重要生態系監視地域モニタリング推進事業/環境省生物多様性センター請負、継続)

3ヶ所のコアサイト(土浦市宍塚、敦賀市中池見、枚方市穂谷)で試行調査を実施し、調査マニュアルを作成するとともに、文献・ヒアリング調査により、残るコアサイトの地域選定に関する検討を進めた。

- ・小笠原国有林南島モニタリング調査(林野庁関東森林管理局委託、継続)

自然観察路周辺の植生変化、整備事業を行った自然観察路と荒廃地の土壌侵食状況調査を実施し、事業の評価と保全策への提言を行った。

- ・小笠原村南島自然環境モニタリング調査（東京都委託、継続）

気象・植生・動物生息状況・利用状況・土壌侵食状況のモニタリング調査を実施し、利用に伴う土壌侵食との関係、外来種侵入状況等を解析した。また、5年目の最終年度にあたり、調査結果の総括と今後のモニタリング体制への提言を行った。

3. 普及広報事業

(1) 広報系プログラム

① 会報『自然保護』の発行

年6回（第485号～第490号）、各約18,000部を編集・製作した。ワーキンググループ会議を毎月開催し、会員層に合わせた編集の方向性や企画・構成を検討するとともに、読者からの感想・寄稿等の増加を目指した。また、記事の性格づけと内容面の点検機能の向上について、検討を開始した。

[各号特集]

- ・日本の森の歩き方（第485号、5/6月号）
- ・フィールドにある、この危険から身を守る！夏編（第486号、7/8月号）
- ・モニタリングで川の変貌をつかむ～河口堰建設から10年目の長良川の場合（第487号、9/10月号）
- ・ガン、コウノトリ、トキのいる日本の空（第488号、11/12月号）
- ・「エコツアー」を企画する人のための7つのポイント（第489号、1/2月号）
- ・ナチュラリストの文章力の磨き方（第490号、3/4月号）。

② NACS-J ホームページの運営

IT環境の変化に対応したセキュリティ強化とアクセシビリティ向上、多様な活動を幅広く伝えられるサイトを目標に、デザインと構造のリニューアルを行った。

週2回ペースで情報を更新した（サイト全ページアクセス年間計12,698,208Hits／日平均34,789／トップページアクセス日平均599）。

(2) 環境教育系プログラム

① NACS-J 自然観察指導員の養成

- ・NACS-J 自然観察指導員講習会（日本郵政公社助成、一部）

地元団体・自治体・学校・企業との共催で18回の講習会を開催した（16頁・別表7、今年度登録者1,013名、初回以降総登録者22,029名）。また、「講師会議」や講師候補者への研修・OJTを通じて講師のスキルアップとレベル統一に努め、講師陣を拡充するとともに、プレゼンテーション用PC機器を購入し、講義の効率化と内容充実を図った。

- ・自然観察指導員フォローアップ研修会

地元団体との共催による6回の研修会と（1回は定員割れのため開催中止）、指導員有志による実行委員会を主催とした「第7回自然観察指導員全国大会 情報交換とスキルアップ」を開催した（16頁・別表8）。

- ・指導員活動のフォローアップ

連絡会主催の地区交流会・総会等への出席、研修会への講師派遣のほか、メールマガジン「しどういん徒然草」を発刊した（11月～、7号）。また、ホームページのリニュー

ーアルに伴い、指導員ページの内容充実を図った。

- ・ 指導員管理（日本郵政公社助成）
指導員登録用 PC 機器を入れ替え、業務の効率化と個人情報保護の強化を図った。

② 環境教育一般

- ・「自然しらべ 2005～10 年目の川」の実施

自然観察を通じて自然の変化に気づく人を増やすため、学生インターンの協力とホームページの活用により参加者を募って 10 年前と同テーマで実施し、川の自然の変化を調べた。（通算 10 回目、協賛：(株)サニクリーン、協力：大熊孝・(株)ネイチャースケープ、期間：7/1～8/31、参加人数：のべ 1,619 名、観察数：822 地点）。

- ・「フィールドガイドシリーズ」の出版

『海辺ウォッチング（仮）』の発行と『野外における危険な生物』の改訂を計画していたが、完成に至らなかった。

- ・外部事業への参加・協力

「のとエコロジーキャンプ」（8/5～7、国立能登青年の家）、「環境教育・関東ミーティング」（12/9～11、国立赤城青年の家）の企画・実施に協力したほか、催事パネラー・総合学習講師・観察会リーダー・原稿執筆・取材対応等への人材紹介や後援等の協力を行った（13 頁・別表 4）。

(3) 個人会員拡大系プログラム（牧田基金を活用）

① 参加機会の提供による会員拡大

- ・「学生向けリアルネイチャー・セミナー」の開催とプログラムの定番化

今年度（3 年目）は、東京に加えて地方会場（名古屋・京都）での開催を試行し、132 名の入会を得るとともに、企業協賛と学生ボランティアからなる開催スタイルと運営体制の構築を進めた（17 頁、別表 9）。

② 企業・寄付者・会員との協力関係の開拓・拡充

- ・「企業人向けリアルネイチャー・セミナー」の開催とプログラムの定番化

今年度（3 年目）は、9 月に 5 回シリーズで開催、企業の CSR 活動における生物多様性保全への取り組みについて担当社員と意見交換を行い、会員拡大事業への協力関係づくりの機会として役立てた（17 頁・別表 9）。その結果、次年度の会員拡大事業への協賛は、主にこの参加企業の中から得られることとなった。

また、約 200 の事業者・NGO・学識者からなる NSC（サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク）の研究会活動に参加し、企業の意向を探りセミナーの企画に活かすとともに、各社からの活動プログラムへの企画協力依頼に対応し（クラレ、SONY、東芝、NTT データ等）、事業協賛・寄付企画・賛助会員の獲得につなげた。

- ・「AKAYA リアルネイチャー・キャンプ」の開催とプログラムの定番化

AKAYA プロジェクトエリアで 5 回開催し、会員・企業 CSR 担当者等に自然保護活動の成果の現場を実体験してもらうとともに、企業との協力関係を強化する機会として活用した。（17 頁・別表 9）

③ 会員の手による会員拡大システムの構築

会員を中心に、活動シーンごとにターゲットを絞って入会案内パンフレットの配布協力

を呼びかけ（協力者 433 名、配布数約 26,800 部）、66 名の入会を得た。また、協力者を対象としたメーリングリストを立ち上げ、パンフレットのより効果的な配布等に関する意見交換の場を作った。

④ ユース会員ネットワークの構築

主に学生セミナー参加者を対象に、当該セミナーの運営スタッフ等次年度プログラムへのボランティア参加メニューの提示等を通じて、ユース会員の継続率向上のためのネットワークづくりとニーズのヒアリングを開始した。

⑤ 入会勧誘メッセージおよび印刷物の研究・作成

会員へのヒアリング等をもとに入会案内パンフレットをマイナーチェンジし、DM 発送や施設へのパンフレット設置協力依頼（年 2 回、約 700 カ所）を行った。また、電子メール「自然保護ニュース」の無料配信（月 2 回ペース、登録者約 10,000 名）、外部事業への参加協力や取材対応等を通じて、問合せ数と入会者数の増加に努めた。

⑥ 入会勧誘広告の研究・試行

モンベル会報「Outwards」夏号、「エココロ」2 月発売号で無料広告の誌面を獲得し、個人会員への入会を呼びかけた。

4. 会員管理・サービス事業

① 会員管理

- ・会員数の維持・拡大

個人会員向け会費口座引落の PR や各種継続依頼状の工夫等により会員数の維持に努めたが、市町村合併に伴う地方自治体の団体会員減を中心に会員数は減少し、目標に至らなかった。

- ・一般寄付の維持・拡大

商品・作品の販売や催事での募金等による寄付企画の受け入れや会報での呼びかけ等を通じて、使途指定のない寄付金の獲得に努めたが、目標に至らなかった。

② 会員サービス

主催催事での直接販売や狼森（おいのもり）による通信販売を通じて、オリジナル刊行物や会報『自然保護』バックナンバーを頒布し、情報の普及に努めた。

自然に関する書籍の注文等、賛助会員企業による会員宛 DM の発送を 2 件受け付けた。

5. 顕彰・基盤整備事業

① 顕彰

日本自然保護協会沼田眞賞の推薦募集・選考を行い、第 5 回授賞者を長谷川博氏（鳥島におけるアホウドリの復活に対する貢献）および宍塚の自然と歴史の会（里山の自然と文化の保全に対する貢献）に決定し、授賞式および記念講演会を開催した（12/18、於：東京大学山上会館、約 60 名参加）。

② 基盤整備（運営基盤整備積立金を活用）

- ・事務局オフィスの移転

篤志家からのオフィス環境改善への指定寄付や中外製薬㈱によるオフィス家具の寄贈等の協力を得て、スペースの拡大、コストの削減、より活動しやすい空間づくりに向け

てオフィスを移転した。

- 資産運用の改善

昨年度から実施している基本財産およびその他固定資産の一部運用変更を今年度も継続し、利息収入の増加を図った。

- 労務・人事システムの改善の検討

社会保険労務士にコンサルタントを依頼して人事制度全般の見直しに関する検討を開始、関係規程類の改定の準備を進めた。

- 商標登録の更新

当協会のロゴマーク「NACS-J」の登録を更新するとともに、「自然観察指導員」を新たに登録した。

以上

別表 1. 意見書・要望書等の提出（協会代表者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

- ・成田新高速鉄道線建設事業ならびに、一般国道 464 号北千葉道路（印旛～成田）建設事業に係る環境影響評価順義書に対する要望書（5/17、千葉県知事）
- ・岐阜県・下呂市、高山市々境に計画中の濁河風力発電事業（仮称）に対する意見書（6/9、中部森林管理局長・下呂市長・岐阜県知事）
- ・成田新高速鉄道線建設事業ならびに、一般国道 464 号北千葉道路（印旛～成田）建設事業に係る環境影響評価準備書に対する環境大臣・国土交通大臣意見についての要望書（8/30、環境大臣・国土交通大臣）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に関する『辺野古沖縮小案』に対する意見書（10/4、外務大臣・防衛庁長官）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に関する『辺野古沖縮小案』『キャンプ・シュワブ沿岸案』に対する意見書（10/26、外務大臣・防衛庁長官）
- ・中城湾港泡瀬地区埋立事業における浚渫工事等の一時中断を求める要請（12/1、沖縄及び北方対策担当大臣・環境大臣・内閣府沖縄振興局長・内閣府沖縄総合事務局開発建設部長・沖縄県土木建築部長、WWF ジャパン・日本野鳥の会との共同）
- ・2005 年度「海上地区会場計画モニタリング委員会」開催の要望（12/7、2005 年日本国際博覧会協会事務総長、WWF ジャパン・日本野鳥の会との共同）
- ・中城湾港（泡瀬地区）公有水面埋立事業における生物多様性保全を求める要請（3/17、沖縄県知事・環境大臣・沖縄及び北方対策担当大臣・沖縄県文化環境部長、WWF ジャパン・日本野鳥の会との共同）
- ・普天間飛行場代替施設建設事業に係る『キャンプ・シュワブ沿岸部移設案（沿岸案）』に対する意見書（3/30、外務大臣・防衛庁長官）

別表 2. 声明・パブリックコメント等の提出（主に業務担当者名で提出、カッコ内は提出日・提出先）

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行規則（案）に関する意見（4/6、環境省野生生物課）
- ・長良川河口堰運用後 10 年間の環境変化の解析と今後のとりくみについて（コメント、7/6）
- ・中城湾港（泡瀬地区）埋立事業の環境監視・環境保全に関する委員会無視の事業者の態度に対する意見及び公開質問状（8/10、沖縄及び北方対策担当大臣・内閣府沖縄総合事務局開発建設部長・沖縄県土木建築部長、環境監視委員会および環境保全・創造委員会委員有志との共同）
- ・特定外来生物等の選定に係る意見（9/9、環境省野生生物課）
- ・第 3 次環境基本計画策定に向けた考え方に関するヒアリング（9/12、中央環境審議会総合政策部会）
- ・生物多様性条約第 3 回国別報告書案に対する意見（9/28、環境省自然環境計画課）
- ・自然公園法施行令及び自然環境保全方施行令の一部を改正する政令（案）等に関する意見（11/2、環境省国立公園課）
- ・中城湾港（泡瀬地区）埋立事業における「改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 動物編レッドデータおきなわ」に掲載された生物等の保全についての意見（12/1、沖縄及び北方対策担当大臣・内閣府沖縄総合事務局開発建設部長・沖縄県土木建築部長、環境監視委員会および環境保全・創造委員会委員有志との共同）

- ・中央環境審議会野生生物部会鳥獣保護管理小委員会報告書素案に対する意見（1/13、環境省野生生物課）
- ・第3次環境基本計画（案）に対する意見（2/28、中央環境審議会総合政策部会）
- ・「沖縄県北部訓練場ヘリコプター着陸帯移設事業（仮称）環境影響評価図書案」に対する意見（3/25、那覇防衛施設局建設部建設企画課）

別表3. 委員の派遣（カッコ内は要請主体）

- ・指定動物保護対策検討会（環境省、継続）
- ・群馬新潟県境・平標山避難小屋再整備方針検討会（環境省中部地区自然保護事務所、AKAYA プロジェクトエリア関係事業）
- ・希少野生生物の保護と森林施業等との調整に関する検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・会津地域の国有林保全に係る検討委員会（林野庁関東森林管理局、継続）
- ・会津森林計画区森林生態系保護地域・緑の回廊設定委員会（林野庁関東森林管理局）
- ・日光那須・緑の回廊設定検討委員会（林野庁関東森林管理局）
- ・小笠原諸島森林生態系保護地域設定委員会（林野庁関東森林管理局）
- ・沖縄本島北部国有林の取り扱いに関する検討委員会（林野庁九州森林管理局、継続）
- ・照葉樹林復元及び保護林・緑の回廊設定検討委員会（林野庁九州森林管理局）
- ・アカガシラカラスバト保護増殖事業検討会（東京都、継続）
- ・小笠原国立公園植生回復調査検討会（東京都、継続）
- ・小笠原国立公園植生回復事業検討会（東京都、継続）
- ・小笠原兄島ノヤギ排除検討委員会（東京都、継続）
- ・奄美群島重要生態系地域調査学術検討会（鹿児島県、継続）
- ・中城港湾泡瀬地区環境監視委員会（内閣府沖縄総合事務局、継続）
- ・尾瀬ツキノワグマ対策会議（環境省・尾瀬保護財団、継続）
- ・日光国立公園尾瀬地域・至仏山緊急保全対策会議（尾瀬保護財団、継続）
- ・日光国立公園尾瀬地域利用適正化手法検討会議（尾瀬保護財団）
- ・鳥類標識調査検討会（山階鳥類研究所、継続）
- ・八ヶ岳高原海の口自然郷植生管理検討委員会（株八ヶ岳高原ロッジ、継続）
- ・綾の照葉樹林プロジェクト調整会議、連携会議（てるはの森の会）

別表4. 催事等への後援・協力・職員派遣等（カッコ内は主催者・開催日）

- ・谷津田いきもの里における生物環境調査に関する人材育成（千葉市）
- ・三番瀬猫実川河口域カキ礁講演会（同実行委員会、6/18）
- ・NPO 現代座「約束の水」上演（NPO パパラギ海と自然の教室同実行委員会、6/22）
- ・世界ブナサミット in ただみ（只見町、7/2-3）
- ・第8回（2006年）「日本水大賞」（日本河川協会）
- ・彩の国環境地図作品展（同実行委員会、7/23-3/12）
- ・平成17年度夏休み子供自然観察教室（利根沼田自然を愛する会・沼田市教育委員会、7/31）

- ・展示会「大磯町にアライグマっているの？」（在来生態系保全ネットワーク、8/16-30）
- ・海上の森シンポジウム「愛知万博の成果を海上の森の未来へ」（愛知県、8/20）
- ・第12回オオタカ保護シンポジウム（日本オオタカネットワーク、8/20-21）
- ・第6回ライチョウ会議山梨大会（同実行委員会、8/20-21）
- ・キャンペーン「渥美 空と海と人のみちしるべ保存計画」（渥美・空と海と人のみちしるべ保存会）
- ・自然と人間との共生シンポジウム「野生鳥獣との共生・森づくりを考える」（富山県、9/11）
- ・SAVE21 東京湾まち育てセッション（SAVE21 実行委員会、9/19）
- ・第3回コウノトリ未来・国際会議（同実行委員会、9/24-25）
- ・講演会「景相生態学からの発想」（市民ランドスケープ研究会、10/22）
- ・シンポジウム「オオタカと塚原・高塚山古墳群を残すためにはどうすればいい？」（塚原・高塚山古墳群を保存する会他、11/13）
- ・せたがやトラスト2005（せたがやトラスト協会、11/15-20）
- ・武田久吉先生、尾瀬入山100周年記念講演会（奥利根自然センター他、11/23）
- ・環境教育関東ミーティング（国立赤城青年の家・同実行委員会、12/9-11）
- ・三番瀬フェスタ2005「東京湾・三番瀬の再生をみんなで考えよう」（同実行委員会、12/11）
- ・ワークショップ「生物多様性モニタリング：未来を切り開く協働調査」（東京大学21COEプログラム生物多様性・生態系再生拠点他、12/17）
- ・2005三番瀬市民調査報告会（三番瀬市民調査の会、12/17）
- ・シンポジウム「国境を越えた干潟への想い 韓日の素晴らしい自然・食・文化を未来へ」（日韓共同干潟調査団、2/25-26）
- ・第10回記念大会九州環境教育ミーティング in 水俣2006（同実行委員会、3/4-5）
- ・第3回生物多様性シンポジウム（生物多様性保全ネットワーク新潟、3/18）
- ・11年目をむかえた長良川河口堰を考える勉強会（自然観察指導員三重連絡会、3/19）／計36件

別表5. 海岸植物群落調査研修会

開催日	開催地	会場	共催団体	参加者数
4/16	大阪	せんなん里海公園・潮騒ビバレー	自然観察指導員大阪連絡会	45
4/24	千葉	九十九里浜刺金海岸・白子荘	千葉県自然観察指導員協議会	29
5/14	青森	種差海岸・南浜公民館	青森県自然観察指導員連絡会	31
5/22	高知	入野の浜・あかつき館	高知県自然観察指導員連絡会	21
5/29	鹿児島	吹上浜新川海岸・南薩少年自然の家	くすの木自然館	26
6/5	徳島	小松海岸・川内公民館	とくしま自然観察会	27
6/19	愛媛	重信川河口・都市環境学習センター	愛媛県自然観察指導員連絡会 都市環境学習センター NPO 愛媛生態系保全管理	30
6/26	長崎	雪浦・尻久砂里館	協力：ふるさと自然の会	47
7/23	秋田	西目海岸・町民センター「シーガル」	秋田県自然観察指導員連絡協議会	39
7/31	山口	角島・つのしま自然館	山口県自然観察指導員協議会	31
9/11	宮城	閑上海岸・名取市スポーツサイクルセンター	自然観察指導員連絡会みやぎ	34
10/2	宮崎	石崎浜・石崎浜荘	宮崎県環境情報センター 宮崎県自然観察指導員連絡協議会	26

別表6. プロ・ナトゥーラ・ファンド平成17年度(第16期)助成先

(金額/万円)

テーマ/国内グループ名・海外申請者名	助成額
(1) 国内研究助成	
過去25年間の日光戦場ヶ原湿原周縁部における植生変化追跡/日光戦場ヶ原湿原植生変化追跡プロジェクト	92
奄美諸島固有種オットンガエルの保全生態学的研究/奄美両生類研究会	86
島根県大橋川の汽水環境の保全に関する研究/大橋川の汽水環境を調べる会	100
分断景観におけるササの分布拡大が林床草本の種多様性に与える影響/帯広孤立林研究グループ	100
四国におけるアライグマの生息状況把握調査/特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター	80
放浪種ツヤオオズアリが在来アリ群集に及ぼす影響~海洋島における影響評価~/ツヤオオズアリ影響評価グループ	70
関東に生息するカワウの年齢構成および若齢個体の分散調査/ NPO 法人 バードリサーチカワウプロジェクトチーム	94
地域に根ざしたケラマジカの持続的保全-島の子ども達とともに-/ケラマジカリサーチグループ	90
(2) 国内活動助成	
「坊ガツル」(ラムサール条約新指定地)の自然環境の現況評価とオーバーユース対策/おおいた生物多様性保全センター	60
淡水性のカメ類(在来種)の保護/和亀保護の会	48
国立公園大山蒜山地域における草原生態系の復元/晴れの国野生生物研究会	80
住民参加型のシン垣遺構調査と現代的意義を考える/シン垣ネットワーク	65
幼児と自然ティーチャーズガイドの作成/幼児と自然ネットワーク	70
仙台産アカヒレタビラ個体群の保護増殖ならびに教育現場との連携による新規生息地の開発/宮城県淡水魚類研究会	91
(3) 国内長期事業助成	
中長期開門調査に向けた諫早湾干拓堤防周辺海域の採泥・採水調査/諫早湾保全生態学研究グループ	200
南大東島に隔離分布するダイトウコノハズクの鳴き声を用いた個体識別と個体群動態の解明/ダイトウコノハズク保全研究グループ	169
サンルダム建設が天塩川水系における水環境と水生生物に与える影響の評価/天塩川の自然を考える会	200
(4) 海外助成	
スマトラ島における現生中大型哺乳類の分布現状およびその歴史的変遷に関する調査研究 / Amsir Bakar	120
アンデスに生育するプヤ・ライモンディ群落の復元/ Mery Luz Suni	120
中国雲南省亜熱帯地域のMt. Ailao, Mt. Gaoligongにおける湿潤山地常緑広葉樹原生林の個体群構造、多様性および動態~保護への指針として~/唐 勤	130
スリランカ南東部におけるオスのアジアゾウの行動と被害に関する研究/ Mahinda Rupasinghe	100
パラオ国ングレドウ保全地区のマングローブ林の調査と普及啓発活動のための木道の設置 / Alma Ridep-Morris	130
野生オランウータン生息地における住民参加の森林パトロール活動と動態調査/ Mr. Johansyah Nasucha	100
コンゴ共和国オザラ国立公園北部における野生生物と人間の共存のための調査研究/萩原 幹子	105
計24件	2,500

別表7. NACS-J 自然観察指導員講習会

NO	開催日	開催地	会場	共催団体	登録者数
361	5/20-22	神奈川	芦ノ湖キャンプ村	グリーンタフ	59
362	5/27-29	岐阜	トヨタ白川郷自然学校	岐阜県自然環境保全連合	66
363	6/10-12	長崎	佐世保青少年の天地	自然観察指導員講習会実行委員会 (NACS-J/佐世保市)	58
364	6/24-26	兵庫	淡路景観園芸学校	兵庫県立淡路園芸景観学校	54
365	7/1-3	秋田	保呂羽山少年自然の家	秋田県、秋田県自然観察指導員連絡協議会	59
366	7/16-18	神奈川	富士ゼロックス(株)塚原研修所	富士ゼロックス株式会社	60
367	7/29-31	京都	京都精華大学	京都精華大学	56
368	8/5-7	神奈川	相模川自然の村・清流の里	相模原市	55
369	8/19-21	滋賀	ウッディパル余呉 森林文化交流センター	滋賀自然環境保全・学習ネットワーク	54
370	9/2-4	福島	磐梯青年の家	福島県自然保護協会	64
371	9/9-11	福井	奥越高原青少年自然の家	福井県自然保護センター、福井県自然観察指導員の会	42
372	9/17-19	神奈川	東芝研修センター、小机城址公園	株式会社 東芝	59
373	9/30-10/2	三重	ウェルサンピア伊賀	自然観察指導員三重連絡会	54
374	10/8-10	愛知	国民宿舎・桑谷山荘	愛知県	60
375	10/14-16	山口	山口徳地少年自然の家	山口県、山口県自然観察指導員協議会	56
376	10/28-30	千葉	千葉市ユースホステル	東邦大学、江戸川大学	51
377	11/12-14	埼玉	フレンドシップ・ハイツよしみ	埼玉県	59
378	3/17-19	東京	板橋区立エコポリスセンター、赤塚公園	板橋区立エコポリスセンター	47

別表8. 自然観察指導員フォローアップ研修会

NO	開催日	テーマ	会場	共催団体	参加者数
127	6/4-5	ネイチャー・フィ ーリング研修会	長野県/小諸青年の家	自然観察指導員長野県連絡会	36
128	8/20-21	子どものための 環境学習研修会	島根県/国立三瓶青年の家	島根県、三瓶青年の家、三瓶自然館、島根県自然観察指導員連絡協議会	21
129	8/27-28	ネイチャー・フィ ーリング研修会	青森県/岩木青少年スポ ーツセンター	ウォッチング青森	39
130	8/27-28	フィールドガイ ド・ボードをつく ろう	佐賀県/ふれあい自然塾ひ ぜん	佐賀県、ネイチャー佐賀	17
131	10/22-23	はじめの一步	島根県/国立三瓶青年の家	島根県、国立青年の家、三瓶青年の家、三瓶自然館、島根県自然観察指導員連絡協議会	16
132	11/19-20	はじめの一步	新潟県/三条市グリー ンス ポーツセンター	新潟県自然観察指導員の会	21
133	2/11-12	第7回自然観察 指導員全国大会 「自然観察指導 員・情報交換とス キルアップ!」	東京都/高尾の森わくわ く ビレッジ	企画: 第7回自然観察指導員全 国大会実行委員会 協賛: 東芝、ペンタックス	132

別表9. リアルネイチャーシリーズ

9-1 学生向けリアルネイチャー・セミナー ～ 君に伝えたい自然を守る仕事のこと

開催日	テーマ (開催地/会場)	参加者数
2/17.18.19	自然保護の仕事 (東京/モンベルクラブ渋谷店、TOWER RECORD 渋谷店)	107
2/23	同 (名古屋/Mana House)	21
2/26	同 (京都/新風館)	30

協賛/富士フイルム、モンベル、新風館、TOWER RECORDS、新風館、エココロ

協力/キリンビバレッジ、オムロン、学生ボランティアスタッフ 70名

9-2 企業人向けリアルネイチャー・セミナー ～ 経営と CSR の源としての「生物多様性」に取り組むために

開催日	テーマ	参加者数
8/26	「考え方の整理」CSR、また日々の業務に、いかに生物多様性保全を取り入れるか	35
9/6	「内部改革」社員の自然保護意識を向上させる手立て、その実践例、自然観察の活用	28
9/13	「社会へのアプローチ」CSR として、また「良い企業市民」としてステークホルダーから評価を得るには	28
9/22	「組織自体の改革」生物多様性に視点を置いた、本業のシフトチェンジとは	23
11/29	番外編～ステークホルダーダイアログ「学生と企業との、環境施策ダイアログ」	58

会場/新宿 NS ビル会議室、東芝会議室 協賛/東芝 協力/キリンビバレッジ

9-3 AKAYA リアルネイチャー・キャンプ

開催日	テーマ	参加者数
7/17-18	リスのごちそう、今年は何のくらい?～夏の森の豊かさをはかろう	22
7/25-26	第2回森の科学探検隊	35
9/23-24	第3回森の科学探検隊	37
10/22-23	木の実の行方	19
3/3-4	雪の中のミクロとマクロ～足跡、冬芽、森のスガタ～	12

協賛/ニコン 協力/モンベル